

株式会社ファミリーマート 御中

夢の掛け橋募金
2015年完了報告書

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの
活動全体のご支援

2016年8月24日
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



はじめに

いつもセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンをご支援いただき有難うございます。

貴社とのパートナーシップは1993年より始まり、累計約12億円のご寄付をいただき、国内外の子ども支援および緊急支援活動を支えていただいております。中でも、弊会の活動全体をご支援いただくご寄付（無指定寄付）は法人・企業の中でもっとも多く、夢の掛け橋募金のおかげで、子どもたちに直接支援を届ける活動に加え、アドボカシー（政策提言）活動や子どもの支援活動を強化する広報活動、法人連携部の活動など、幅広い活動をご支援いただき、包括的な子ども支援を実現することができております。

2015年は、(株)ファミリーマートからのご寄付、全店舗のみなさまに協力頂いた「ファミリーマート夢の掛け橋募金」およびファミポート募金を通じ、ファミリーマートチェーン全体として59,079,420円のご寄付をいただきました。ファミリーマートのお客様、そして店舗のオーナー、店長、従業員のみなさまのご理解とご協力により、世界の子どもたちのために有効に活用させていただくことができました。心より御礼申し上げます。今後ともあたたかいご理解とご支援を賜りたく、宜しく願い申し上げます。

1. 事業概要

事業	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動全体
事業期間	2015年1月1日～2015年12月31日
対象国	モンゴル、ミャンマー、ベトナム、インドネシア、ネパール、レバノン、シリア、パレスチナ（ガザ）、ウガンダ、日本
事業分野	教育、保健栄養、子どもの保護、緊急支援、防災

2. 事業内容

2015年、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは16の国と地域で活動を行い、229,531人の子どもと大人に支援を届けました。海外事業において、みなさまのご寄付を以下の活動費用の一部として活用させていただきました。

- ・モンゴル：教育事業、子どもの保護事業
- ・ミャンマー：保健栄養事業、子どもの保護事業
- ・ベトナム：保健栄養事業、教育事業
- ・ネパール：緊急支援
- ・レバノン：緊急支援
- ・シリア：緊急支援
- ・パレスチナ：緊急支援
- ・ウガンダ：防災事業

・日本：イベント・講演会での普及・啓発活動、子育てセミナーの開催

* 上記のご支援に加えて、グローバル子ども募金を通じたタイ、ベトナム、インドネシアの防災事業も実施することができました（報告書提出済）。

3. 募金総額（2015年1月1日～12月31日）

2015年ファミリーマート夢の掛け橋募金 他	59,079,420円
------------------------	-------------



4. 活動報告

みなさまのご寄付は以下の活動費用の一部として活用させていただきました。

子どもたちが健康に生きる権利を守る セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの取り組み



栄養不良や感染症の予防などを支援。保健システムの強化や政策提言を通し、誰もがお金に困ることなく、質の高い保健・医療サービスを受けられる「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」の実現に貢献しました。



地域住民を対象とした保健センターへの視察訪問の様子（ミャンマー）



栄養食の調理実習（ベトナム）

●ミャンマー

「地域に根ざした総合的な母子保健事業」を実施し、地域の住民に対して保健知識の啓発活動を行うとともに、母子保健の担い手である助産師と補助助産師の研修支援や、保健センター4カ所の建設を行いました。本事業により保健ボランティアの産前訪問を受けた母親が48%から90%に、医療従事者による分娩介助率が47%から56%に上昇しました。

●ベトナム

「最貧困層の食料確保と栄養改善事業」を実施しました。稲集約栽培法を普及することにより、実践する世帯が240から1,220に拡大し、各世帯でコメの収量が増加しました。また、地域により運営される栄養回復センターでは、栄養不良の2歳未満の子どもの95%に栄養食を提供しました。

【ベトナム】

栄養改善事業の 支援を受けた ニヤットさん



「事業に参加する前は、子どもには4種類の栄養素が必要だと言う事も、こうした栄養素が入った子どもの食事の作り方も知りませんでした。

この事業に参加して一番良かったことは、子どもの健康を守る知識や技術を身に着けられたことです。

皆さんには本当に感謝しています。」



子どもたちが学ぶ権利を守る セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの取り組み



子どもの読み書き能力の向上を中心に、就学前のこどもたちから就業を目指す青少年まで、多くの支援を届けました。



縫製工場で学ぶ様子（インドネシア）



絵本を手にする新入生の男の子とお母さん
（モンゴル）

●モンゴル

遠隔地で暮らし、幼稚園に通えない遊牧民の子どもたちが、小学校入学後、新しい環境にスムーズに移行できるよう、11,224人の子どもたちに対して、家庭での学びの機会を提供する学校準備プログラムを実施しました。また首都のウランバートルでは、特に幼稚園経験のない子どもが小学校の環境に適応し、定着できるように、先生を中心に学校全体の体制が強化されるよう働きかけました。

●ベトナム

北部山岳地帯のベトナム語を母語としない少数民族の子どもたちがより授業を理解できるようになるよう、同じ民族の補助教員を雇用しました。子どもたちがより理解できる教え方の研修を実施し、また、古い教室の改修や図書と遊具の配置なども実施しました。

●インドネシア

農村の貧困層の若者が置かれた状況や就業機会を考慮し、縫製や車両整備などの職業訓練コースを立ち上げ、1期生の訓練を終了しました。加えて、コミュニティ学習センターで学ぶ若者に対し、起業などのライフスキル研修を実施しました。

【モンゴル】

アルハンガイ県で
学校準備プログラム
に参加する
ボルガンツェツェグ
さん



「わたしは、移動図書館で借りられる絵本が大好きです。いつもたくさんの絵本を読んでいて、お気に入りのひとつは『みにくいアヒルの子』です。ほかにも『わたしはアーティスト』という詩を覚えたり、本に出てきたなぞなぞもしています。図書館には文房具やおもちゃも入っていて、いろいろなもののお絵かきもできるようになりました。わたしは学校準備プログラムが大好きです。」



子どもたちが保護される権利を守る セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの取り組み



暴力や虐待、搾取の被害を受けた子どもたちへの支援のほか、体罰禁止に向けた働きかけや、叩かない・怒鳴らない子育ての普及を推進しました。



子どもたちの学習会（ミャンマー）



暴力のない子育て啓発セッション
（ミャンマー）

●ミャンマー

36の村で子ども支援グループを形成し、暴力などの被害を受けた子どもたちに心のケアや教育、医療などの支援を提供。暴力のない子育ての啓発を行い、暴力や搾取の予防も行っています。また、紛争のために教育を受ける機会がなかった子どもたちに識字や算数などの学習会を開き、子どもたちの自己肯定感や自己効力感の向上を目指しました。

●モンゴル

虐待などの理由で、保護が必要な子どもを支援する、行政機関の専門チームの調査を実施し、その結果に基づき、専門家がより効果的な対応をできるように、実務面での助言などを実施しています。

●日本

家庭で起きうる「叩く、怒鳴る」を含む、子どもの尊厳を損なう不適切な関わりやしつけを予防すべく、子育てや親子の関係づくりを見直すための考え方「ポジティブ・ディシプリン」を広めています。2015年は養育者をより支えられるよう9回のプログラムを開始しました。

【ミャンマー共和国】

暴力のない子育てを
地域で推進する
ボランティアの
ウバエさん



「昔は紛争があり、人びとは戦闘を恐れ、私自身も親戚を亡くしました。もちろん、子育てをどうしてよいのかなど考えたこともありませんでした。この事業に参加し、月に2度、暴力のない子育てに関するセッションを開催し、村人が参加してくれるようになりました。今では、多くの保護者が、子どもたちに困難を乗り越えられるような大人になってほしい、そのためにも、子どもたちを信頼し、子どもたちの自信を育むことが大切と考えてくれるようになりました。」



子どもたちの生きる権利を守る セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの取り組み



2015年はシリア危機をはじめ、ネパール大地震への対応を行ったほか、メディアの注目のあたりにくい小規模な災害にも支援を届けました。



青少年クラブによる子どもたちへの余暇活動
(レバノン)



地震による被災地での緊急支援物資の配布
(ネパール)

●ネパール

2015年に発生した地震での被害に対し、シェルターキットや毛布、寝袋、衛生用品、調理器具セットなどの緊急支援物資を配布したほか、子どもたちが安心・安全に過ごすことのできる「こどもひろば」を運営しました。

●シリア

「こどもひろば」を設置し、子どもたちが安心・安全に過ごせる場所を提供するとともに、心理社会的サポートを実施。また、近親者の喪失や極度の貧困、危険な児童労働により、特に脆弱生が高いと考える子どもたちに対しては、個別のニーズに対応したサポートを提供しました。

●レバノン

シリア難民の青少年が、避難先のレバノンの地域社会に溶け込めるよう、シリア難民とレバノン人双方の青少年が、芸術やスポーツなどを通じて交流する青少年クラブの活動や、社会スキル研修・職業スキル研修の場を提供することで、社会への参加を促進。のべ4,197人が参加しました。

【レバノン】

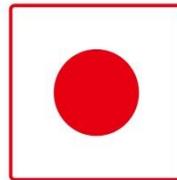
避難先のレバノンで
社会スキル研修を
受講し、青少年
クラブに参加してい
るシリア難民の
ルブナさん



「私が受講した社会スキル研修で学んだことはすべて、将来の可能性へと続く扉を開く『鍵』になったと信じています。そして何よりも素晴らしいのは、青少年クラブの活動に参加することで、同じ地域の他の青少年たちにこの鍵を広めてあげることができるとです。きっとこの鍵は、私たちの社会にとって、とてもポジティブな影響を与えると確信しています。」



日本国内での活動



2015年は企業をはじめ、政府・自治体関係者、幼稚園から大学院に至るまで、幅広い教育機関や任意団体向けに各地で講演会を行いました。また、子育てセミナーや様々なイベントを通じてより多くのかたにセーブ・ザ・チルドレンの活動にご理解と賛同をいただくことができるような普及活動を行いました。

●講演会

日本各地でセーブ・ザ・チルドレンのスタッフが講師として「世界の子どもたちについて」「持続可能な開発目標（SDGs）とは？」「子どもの権利とビジネス原則」等、様々なテーマで2015年は50回以上の講演を行いました。

●子育てセミナー

「手をあげたり、怒鳴ったりではなく。でも、したい放題にさせるわけでもなく。日々の課題に同じ目線で向き合い自信とちからをのばしていく子育てのセミナー」を2015年は32回実施、ほかにシンポジウムや学会での発表も行いました。

●イベント・普及活動

企業イベントや大型商業施設などで、セーブ・ザ・チルドレンの活動を理解し、ファンになっていただくための普及・啓発活動を行いました。また大阪の「ワンワールドフェスティバル」、東京での「グローバルフェスタ」等の大型イベントにも出展しました。



国連ハイレベル政治フォーラムに参加したセーブ・ザ・チルドレンのスタッフ



子育てセミナー（正面2名がSCJスタッフ）



グローバルフェスタ



大型商業施設での普及活動

